

# 2016年9月期 決算説明会資料

2016年11月22日(大阪)  
11月24日(東京)



# 1. 会社概要

## 2. 2016年決算サマリー

## 3. 今後の取り組み

(ご参考資料)



商号	IMV株式会社 [英文社名] IMV CORPORATION
会社設立	1957年(昭和32年)4月17日
資本金	4億6481万円
従業員数	314名 (2016年9月30日現在 連結)
年間売上高	103億7,465万円 (2016年9月期 連結)
上場証券取引所	東京証券取引所JASDAQ市場
証券コード	7760
決算期	9月30日



# グローバルネットワーク



## Osaka 大阪



- ・本社
- ・大阪営業所
- ・技術本部
- ・大阪テストラボ

## Tokyo 東京



- ・東京営業所
- ・東京エンジニアリングサービス部



- ・MESエンジニアリングサービス部
- ・東京テストラボ

## Thailand タイ



IMV (THAILAND) CO., LTD.

## China 中国



IMV CORPORATION  
Shanghai Representative Office

## Nagoya 名古屋



- ・名古屋営業所
- ・名古屋テストラボ

## Uenohara 上野原



東京テストラボ  
上野原サイト 高度試験センター

## U.K. 英国



IMV EUROPE LIMITED



IMV EUROPE LIMITED  
European Manufacturing Centre

## Germany ドイツ



IMV EUROPE LIMITED  
German Sales Office

## U.S.A. アメリカ



IMV America, Inc.

IMV CORPORATION

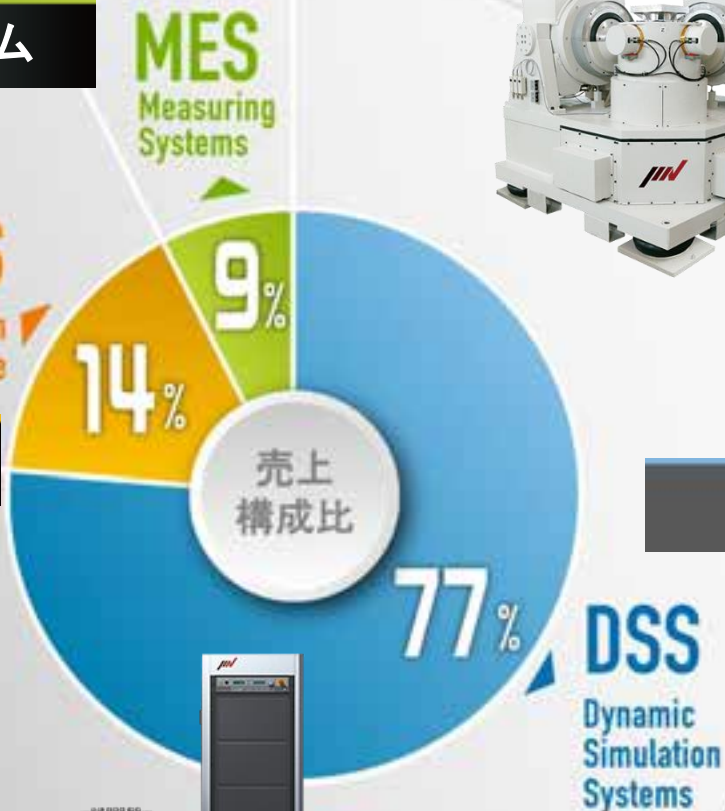
# 事業セグメント



メジャリングシステム



テスト&ソリューションサービス

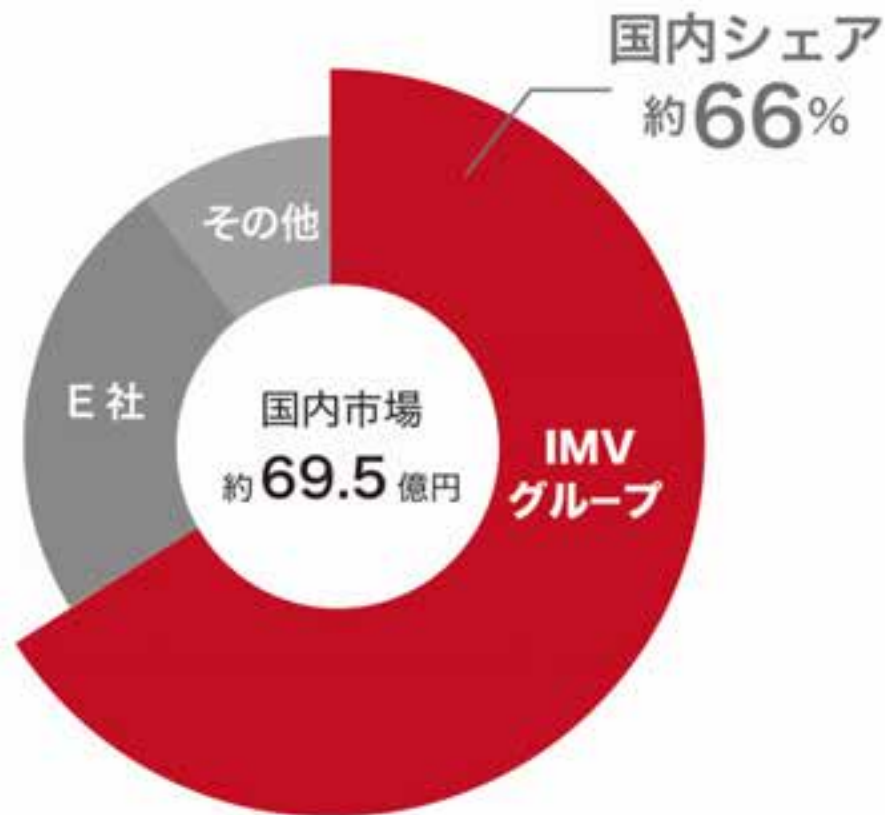
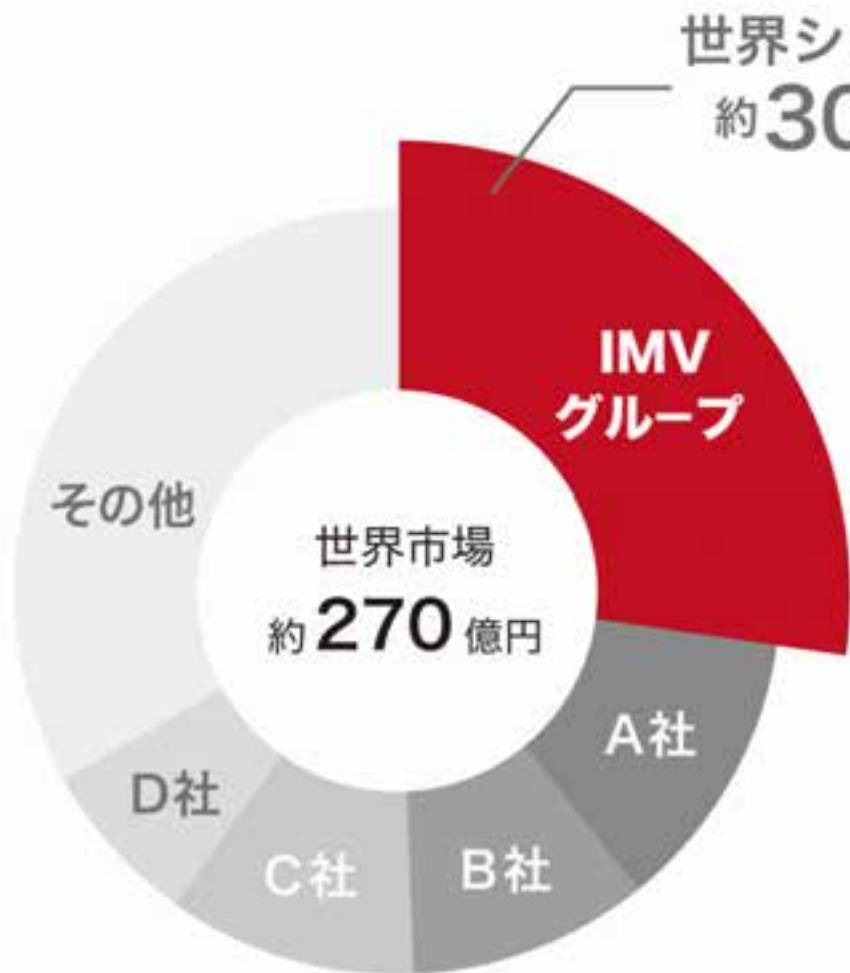


振動試験装置



103億7,465万円  
(2016年9月期 連結)

# 市場 DSS販売シェア状況(当社予想含む)







1. 会社概要

2. 2016年決算サマリー

3. 今後の取り組み

(ご参考資料)

# 決算概要



(単位:百万円)

	16/9期 実績	15/9期 実績	コメント
売上高	10,374	9,170	株式会社振研の完全子会社化による売上高貢献や、欧州向けを中心に順調に売上が推移したことにより、増収となりました。
経常利益	954	1,400	東京テストラボ上野原サイトを中心に、投資費用の増加や、業績連動による新賞与制度導入等による人件費の増加及び円高による為替差損増加等により、前年同期比31.8%の減益となりました。
純資産	5,072	4,539	当期純利益(583百万円)の計上により順調に増加しました。
フリーキャッシュフロー	657	△334	当期純利益の減少等により営業活動による収入は減少したものの、設備関連の支出が前期と比べて減少したことにより、フリーキャッシュフローは増加しました。
売上高経常利益率	9.2%	15.3%	東京テストラボ上野原サイトを中心に、投資費用の増加や、業績連動による新賞与制度導入等による人件費の増加及び円高による為替差損計上等の費用増加額が、増収による増益額を上回り、売上高経常利益率は低下しました。
自己資本比率	43.5%	41.3%	当期純利益(583百万円)の計上により純資産が増加し、財務安全性がさらに向上しました。
自己資本当期純利益率 (ROE)	12.1%	21.8%	当期純利益(583百万円)が前年同期比35.4%減少したことにより、自己資本当期純利益率は減少しました。



# 決算概要(連結)



(単位:百万円)

	16/9期 実績	15/9期 実績	増減額	増減率	16/9期 予想	増減率
受注高	10,383	9,768	+615	+6.3%	—	—
売上高	10,374	9,170	+1,204	+13.1%	9,500	+9.2%
営業利益 (営業利益率)	1,080 (10.4%)	1,377 (15.0%)	△297	△21.6%	1,200 (12.6%)	△10.0%
経常利益 (経常利益率)	954 (9.2%)	1,400 (15.3%)	△445	△31.8%	1,250 (13.2%)	△23.6%
親会社株主に帰属 する当期純利益 (当期純利益率)	583 (5.6%)	902 (9.8%)	△319	△35.4%	800 (8.4%)	△27.1%
設備投資額	582	1,534	△952	△62.0%	444	+31.1%
減価償却費	337	226	+111	+49.2%	430	△21.6%
研究開発費	486	515	△28	△5.5%	617	△21.1%
従業員数(人)※	314	242	+72	+29.8%	246	+27.6%

※△は損失、減少を表します。従業員数には、期中平均臨時従業員数を含みます。

売上高は前期比1,204百万円増収の10,374百万円となりました。東京テストラボ上野原サイトを中心に、投資費用の増加や、業績連動による新賞与制度導入等による人件費の増加及び円高による為替差損計上により、営業利益は前期比297百万円減益の1,080百万円、経常利益は前期比445百万円減益の954百万円となりました。当期純利益は前期比319百万円減益の583百万円となりました。

# 営業利益増減 主要要因(連結)

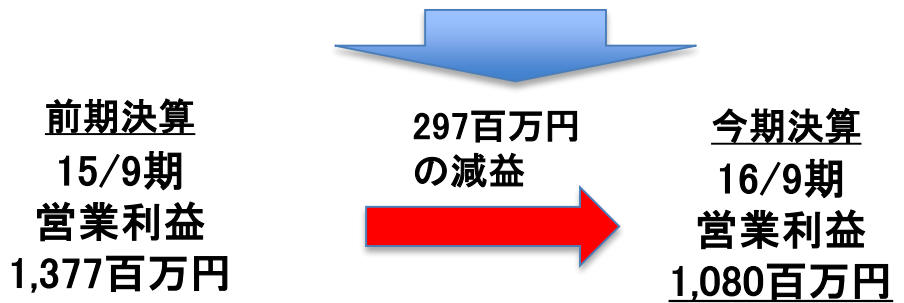


## 主な増益要因

- 増収による利益の増加
- 株式会社振研買収による利益の増加

## 主な減益要因

- 更なる成長に向けた、投資費用増加による減益
- 東京テストラボ上野原サイトを中心に、顧客需要へのきめ細やかな対応による、費用の増加 (右記新聞:参照)
  - 業績連動に基づく新賞与費用の増加及び来期に向けた未払費用の計上による人件費の増加
  - 東京上野原テストラボの立ち上がり遅れによる機会ロスの発生



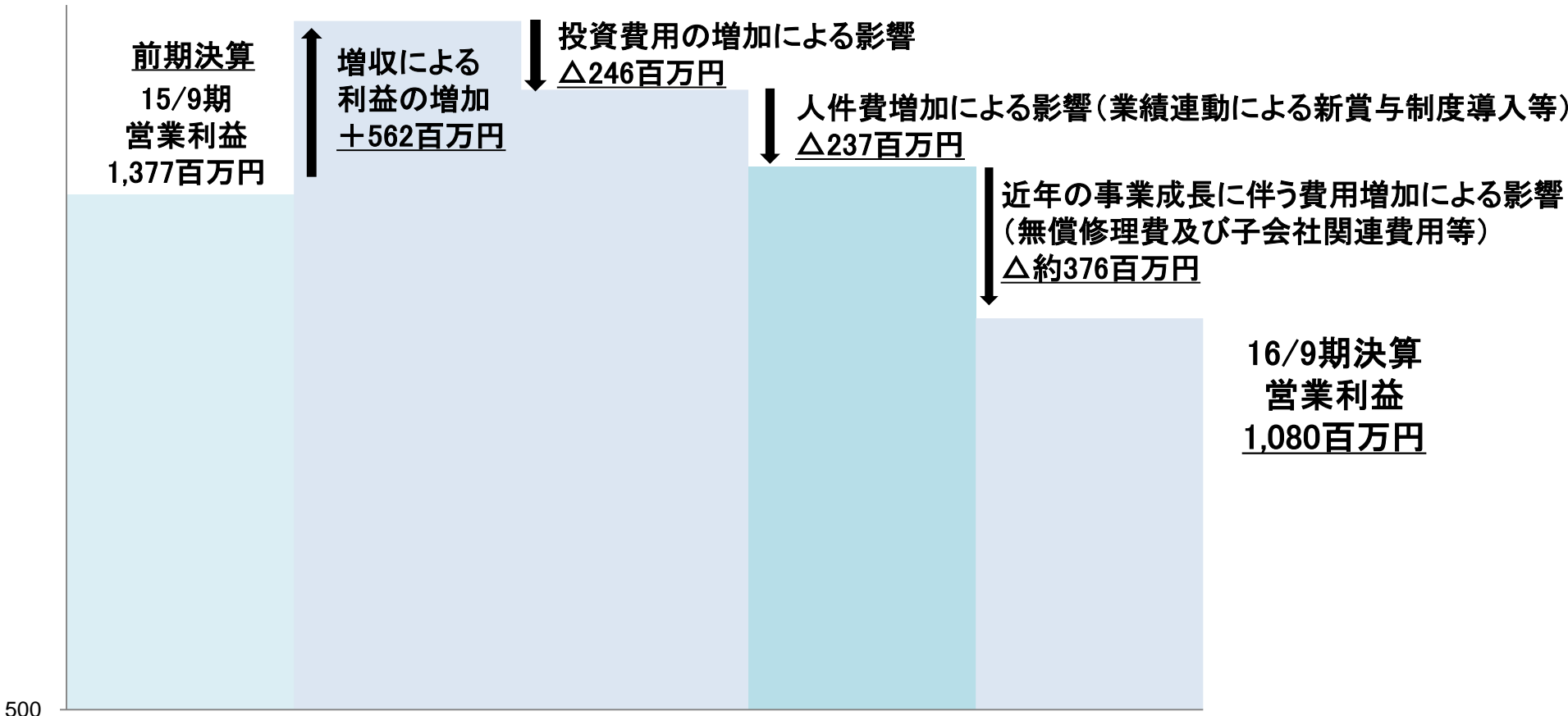
**車載電池の振動専用試験設備**  
IMV、山梨に新施設

振動試験装置大手のIMVは10日、山梨県上野原市に新設した振動試験の委託施設を公開した。大型や多軸対応の試験器に加え、ハイブリッド自動車や電気自動車に搭載するリチウムイオン電池の振動や衝撃を試験できる専用委託施設は全国で初めてという。老朽車の設備を導入し、実際の運転時の状態を近づけて実施する。一方、リチウムは燃焼、充電状態での試験は発火や有毒ガス発生のおそれがある。このため試験室は厚さ15〜30センチの板で覆い、試験実施中はカマドで換気した排気を見ながら遠隔で操作。自動圧水により漏穴するシステムや有毒ガスを無害にする仕組みも採用した。



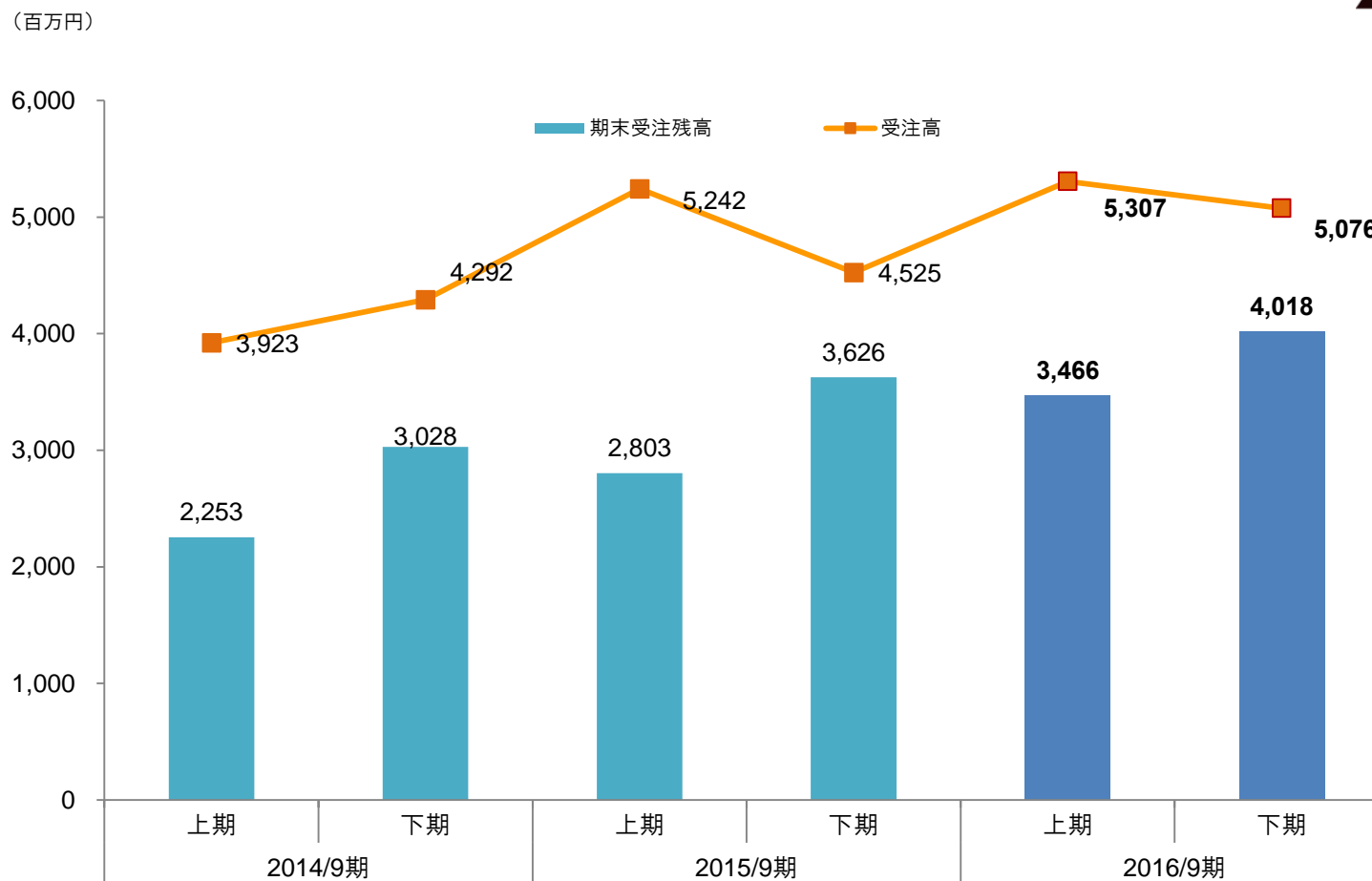
# 営業利益増減要因(連結)

(百万円)



東京テストラボ上野原サイトを中心に、更なる成長に向けた投資費用の増加や、業績連動に基づく新賞与制度導入等による人件費の増加により、営業利益は297百万円の減益の1,080百万円となりました。

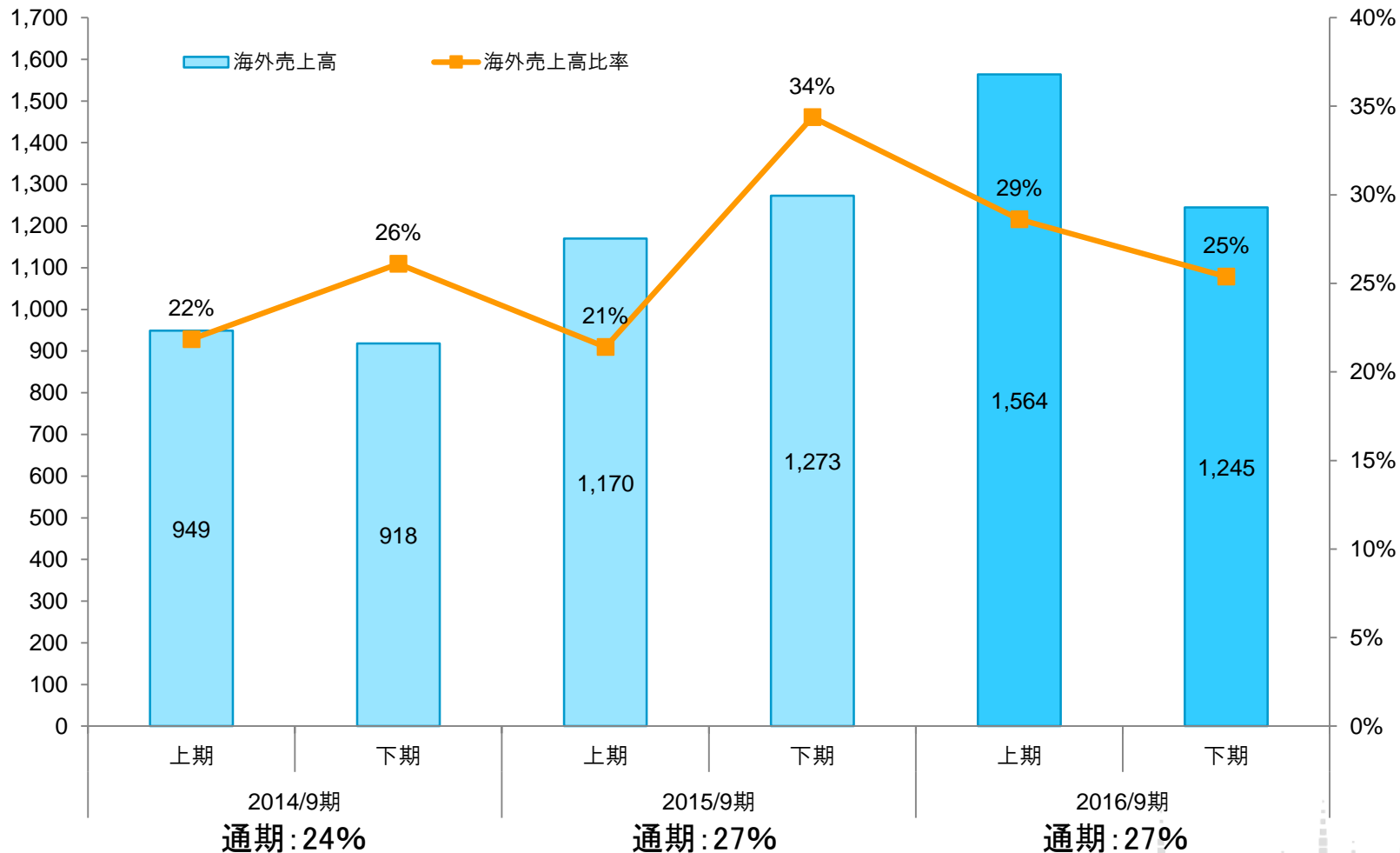
# 受注の状況



# 海外売上高比率の増減

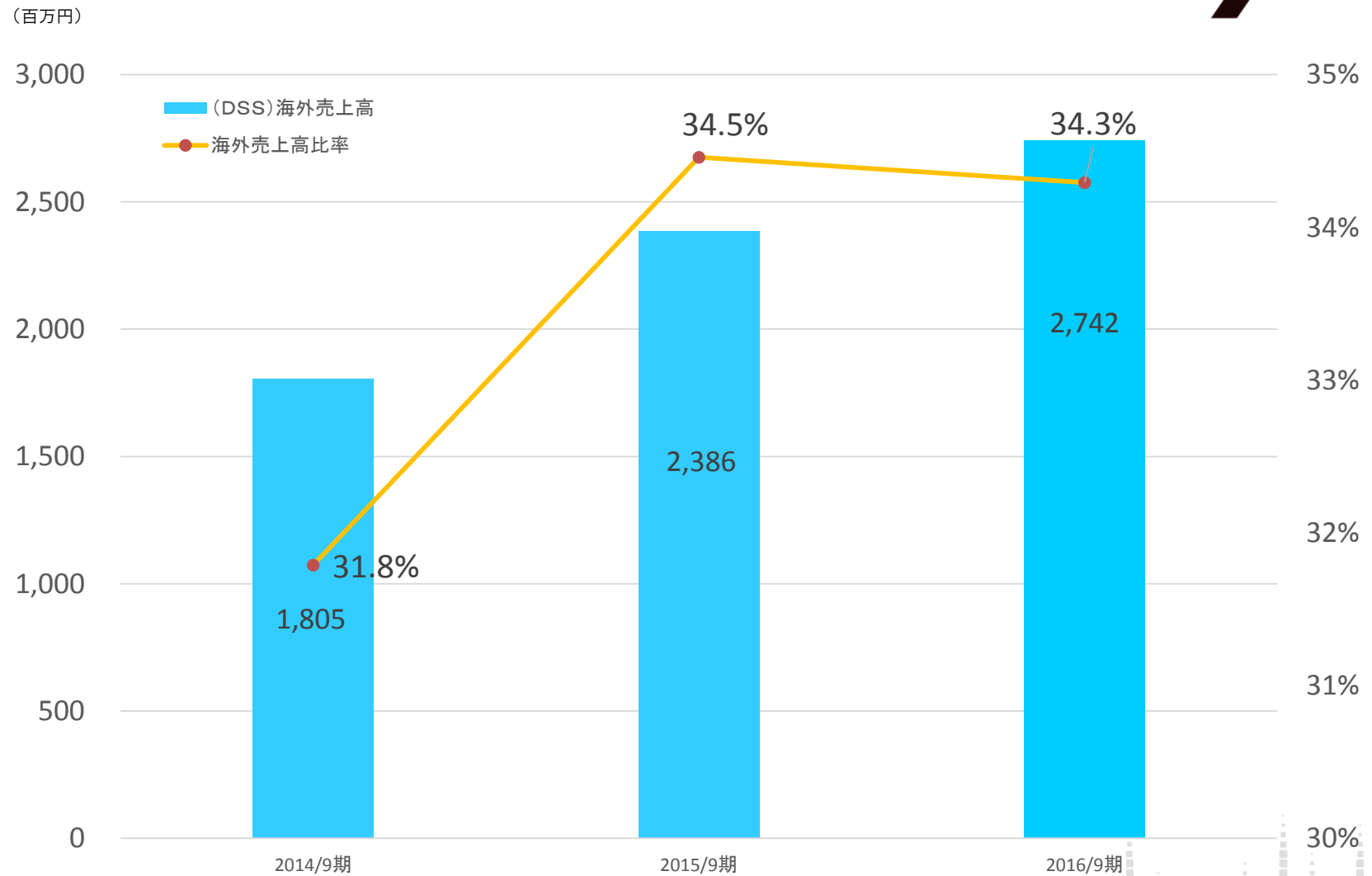


(百万円)



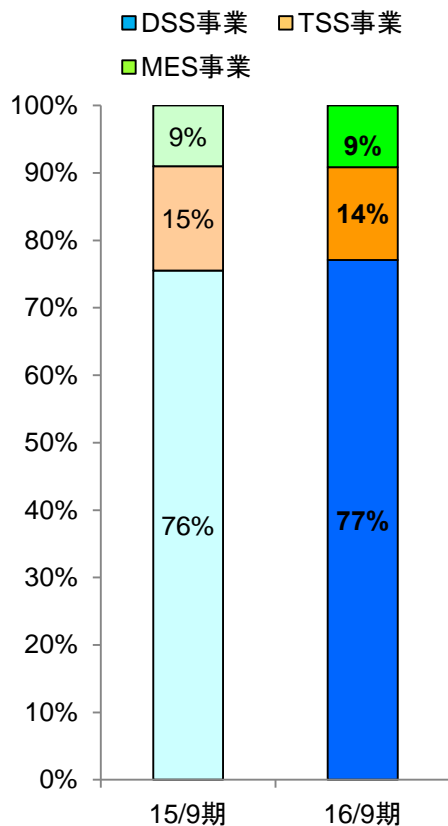


# DSS事業 海外売上高比率の増減

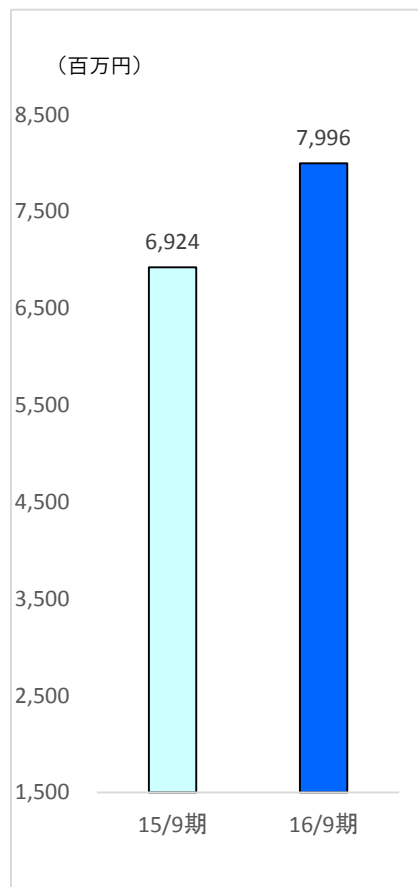




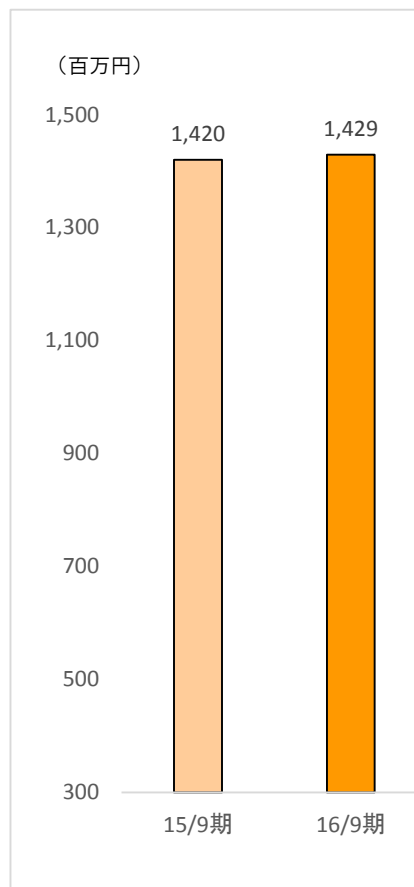
○ 品目別売上構成率



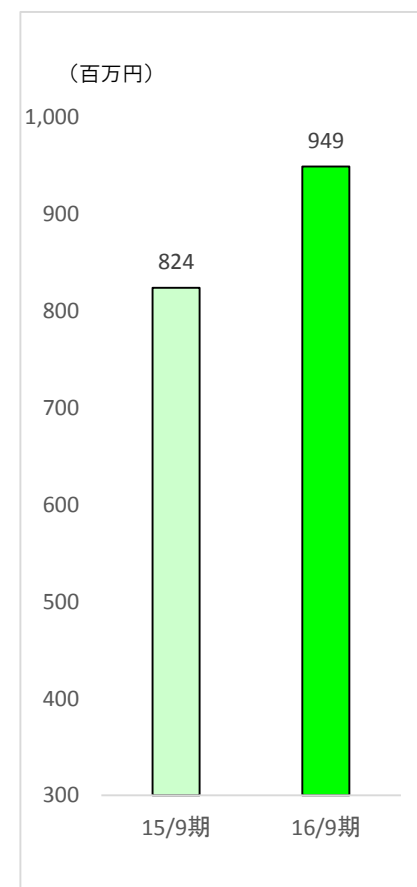
○ DSS事業



○ TSS事業



○ MES事業



株式会社振研の完全子会社化により、DSS事業は、国内、海外ともに順調に売上高が増加し、品目別売上構成率は77%となりました。



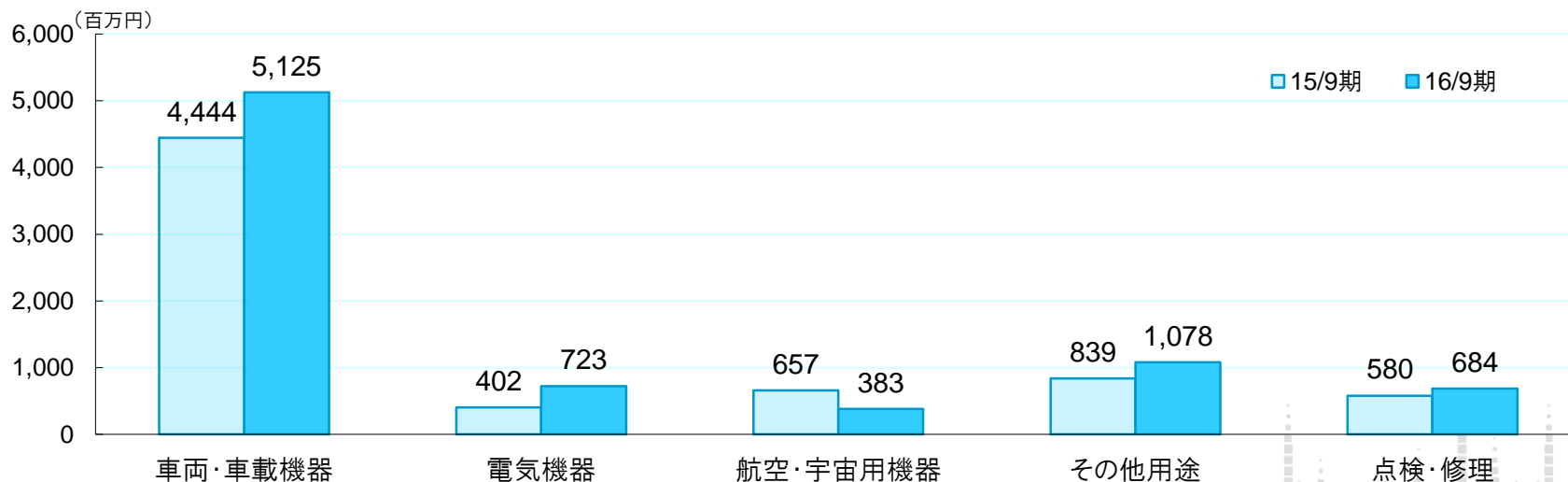
# DSS事業 ～概況～



(単位:百万円)

	16/9期	15/9期	増減額	増減率
車両・車載機器向け	5,125	4,444	+680	+15.3%
電気機器向け	723	402	+321	+79.7%
航空・宇宙用機器向け	383	657	△273	△41.7%
その他用途向け	1,078	839	+239	+28.5%
点検・修理	684	580	+103	+17.9%
合計	7,996	6,924	+1,071	+15.5%

- 株式会社振研の完全子会社化により、DSS事業全体では前年度比+15.5%増となりました。
- ヨーロッパを中心に車両・車載機器向けの売上も増加しました。また、電気機器向けは大型案件の売上を計上したことにより、増加いたしました。
- 航空・宇宙用機器向け売上は、前年同期に計上した大型案件がなかったことにより、減少いたしました。



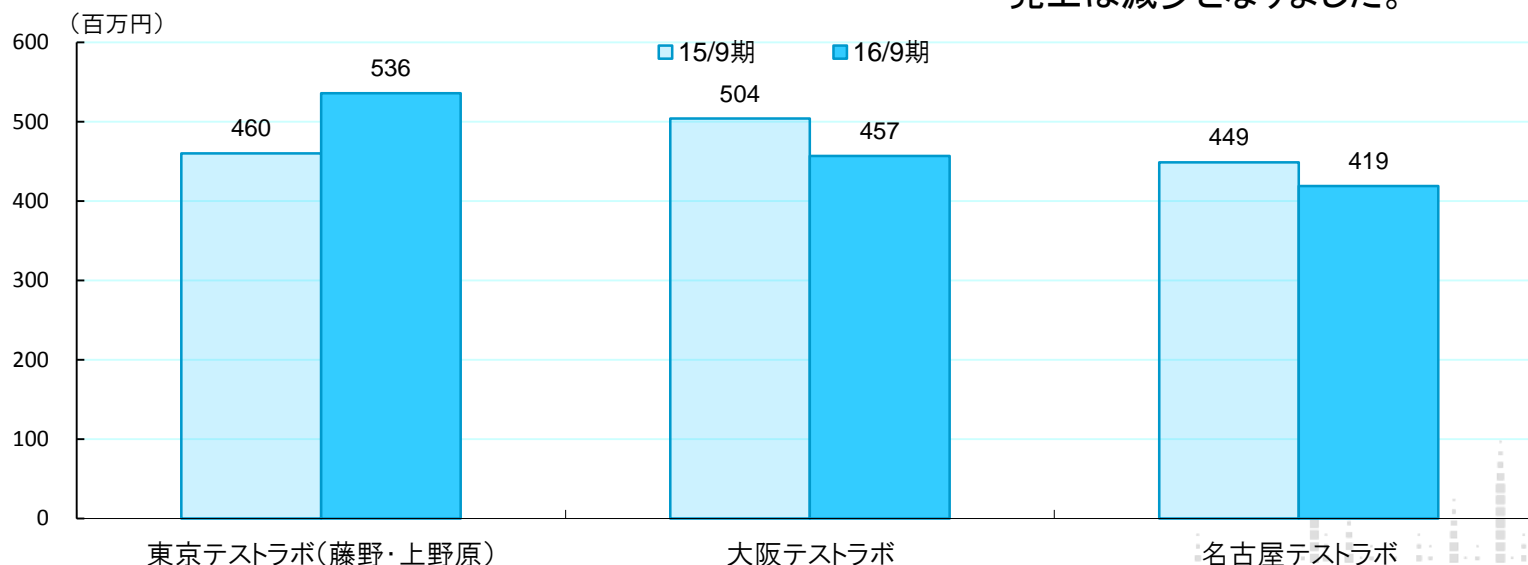
# TSS事業 ～概況～



(単位:百万円)

	16/9期	15/9期	増減額	増減率
東京テストラボ (藤野・上野原)	536	460	+76	+16.5%
大阪テストラボ	457	504	△46	△9.3%
名古屋テストラボ	419	449	△30	△6.8%
子会社外部売上	15	6	+9	+156.7%
合計	1,429	1,420	+8	+0.6%

- 東京テストラボ上野原サイトは、本格稼働開始により、売上貢献に寄与したものの、設置作業等による稼働率低下により、前年度比+16.5%に留まりました。
- 大阪テストラボは、鉄道車両用機器向けの試験が順調に推移したものの、上野原サイトにおける開設作業により、稼働率が一部低下したため、売上は減少となりました。
- 名古屋テストラボは、東海地区における市場への新規参入企業があったことにより、売上は減少となりました。



# MES事業 ～概況～

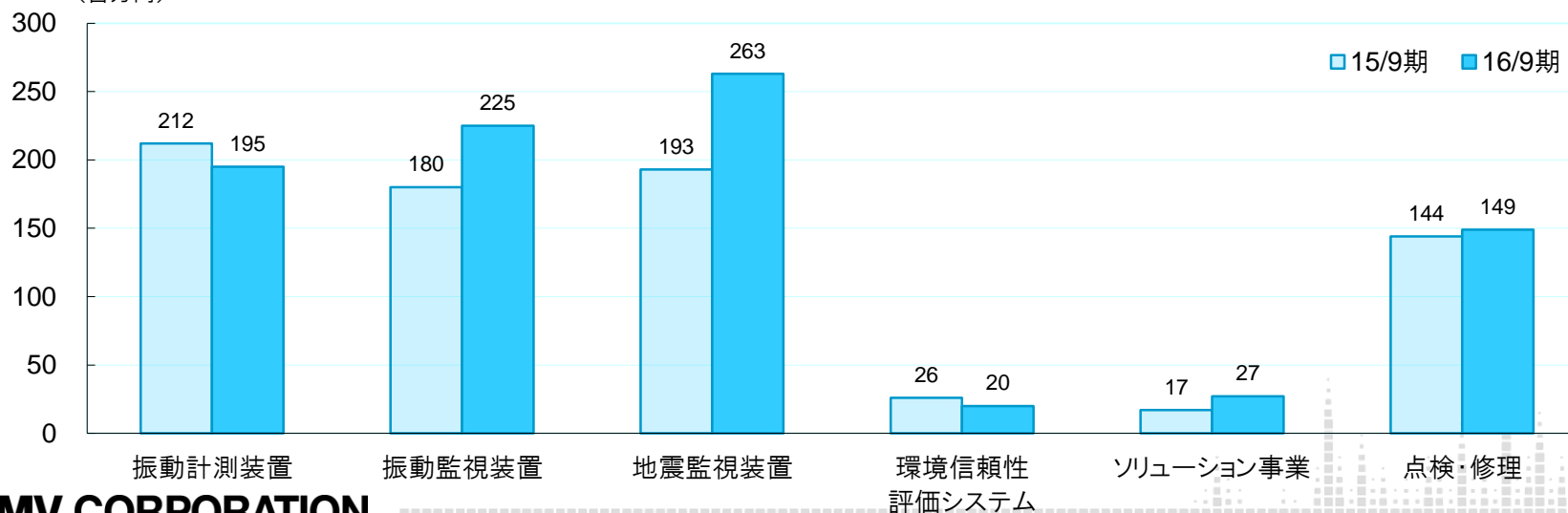


(単位:百万円)

	16/9期	15/9期	増減額	増減率
振動計測装置	195	212	△16	△7.9%
振動監視装置	225	180	+45	+25.2%
地震監視装置	263	193	+70	+36.4%
環境信頼性評価システム	20	26	△6	△23.5%
ソリューション事業	27	17	+10	+62.0%
点検・修理	149	144	+5	+3.5%
子会社外部売上	67	50	+16	+31.9%
合計	949	824	+124	+15.1%

- 中国・台湾への地震監視装置の販売が順調に推移いたしました。
- 国内において発電所向けの振動監視装置の販売も順調に推移いたしました。

(百万円)



## 業績の見通し(連結)



(単位:百万円)

	17/9期 予想	16/9期 実績	増減額	増減率
売上高	10,800	10,374	+425	+4.1%
営業利益 (営業利益率)	1,150 (10.6%)	1,080 (10.4%)	+69	+6.5%
経常利益 (経常利益率)	1,200 (11.1%)	954 (9.2%)	+245	+25.7%
親会社株主に帰属する当期純利益 (当期純利益率)	780 (7.2%)	583 (5.6%)	+196	+33.8%
設備投資	511	582	△71	△12.1%
減価償却費	396	337	+59	+17.6%
研究開発費	561	486	+75	+15.4%
従業員数(人)※	325	314	+11	+3.5%
1株当たり配当金(円)※	7.0	7.0	-	-

※ 従業員数には、期中平均臨時従業員数を含みます。

※16/9期の配当金につきましては、2016年12月開催予定の定時株主総会において上記配当金を附議する予定です。

## 自己株式取得について



- 平成28年11月16日開催の取締役会において、以下のとおり、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式取得に係る事項について決議しました。
- 資本効率の向上及び経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の実施並びに株主への一層の利益還元を目的として、自己株式を取得するものであります。

取得対象株式の種類	普通株式
取得し得る株式の総数	350,000株(上限) (発行済株式総数(自己株式を除く)に対する割合 2.14%)
株式の取得価格の総額	100百万円(上限)
取得期間	平成28年11月17日～平成29年9月30日



1. 会社概要

2. 2016年決算サマリー

3. 今後の取り組み

(ご参考資料)



## IMV先端技術研究所の創設

### 目的

- 未来の試験技術を、顧客及び装置メーカーの両視点からアプローチする。
- 未来の試験技術を、「振動」にこだわらずその可能性を探っていく。

### 背景

- 近い将来、試験方法や試験装置のあり方に関する市場ニーズの変革の波が来る。
- そのための準備を開始する必要がある。

### 手法

- 社長直轄の組織とし、従来のR&D開発部門とは別組織とした。
- 優秀な人材をピックアップした。
- 外部機関との提携も視野にいれて、広い視野で取り組む。

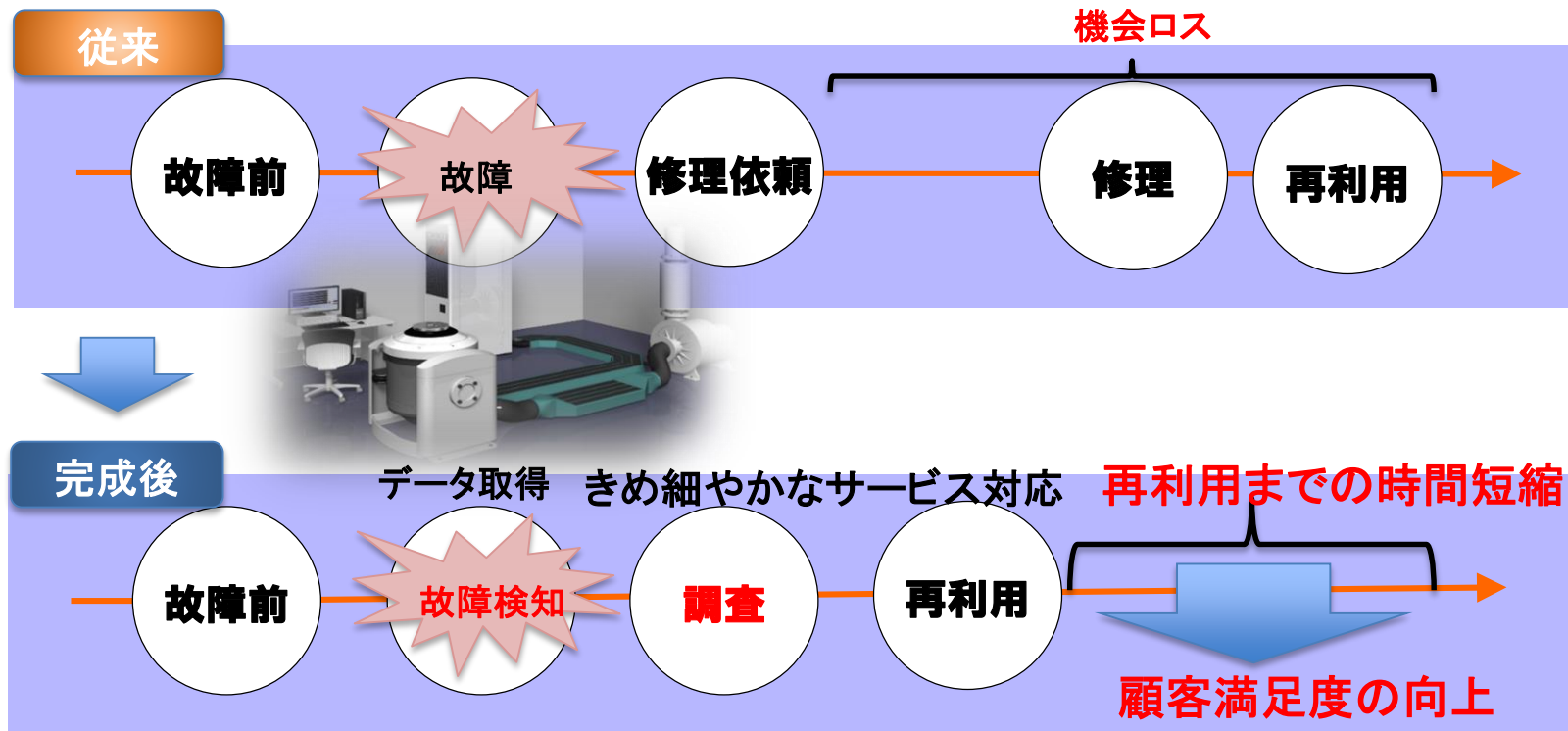
### 内容

- ① 自己診断技術の拡充(後述)
- ② 新市場の開拓(後述)





## ①自己診断機能完成 ⇒ 修理期間中の試験未実施による機会ロスの減少



## ②新規市場開拓 ⇒ リーディングカンパニーとして振動試験装置の進化 ⇒「試験時間の短縮」、「リアルな振動再現」といった市場ニーズ加速に対応



## 提案型ソリューションビジネスの強化

### 顧客変化

- ・人工知能を駆使した自動運転化への対応
- ・新エネルギー技術への対応
- ・研究開発期間の短縮 等

### 制度変化

- ・新技術に呼応した試験規格対応 等

⇒**難易度の高い振動試験が必要不可欠**

⇒顧客の悩み・疑問点へきめ細やかな対応が求められる

### IMVのかかわり

- お客様と一体になって、疑問点を解決する（お客様に入りこむ）
- 大型機、高加速試験機、高精度試験機等、顧客ニーズに合わせた新しい試験装置の導入



**国内TSS事業市場 約50億円(当社予想)のうち、短期目標として  
連結売上高 20億円の達成を目指す。**



## IoTビジネスへの参入 ⇒ 状態監視強化による効率改善への貢献

### 現状

- 事故防止等を目的に、多くの工場等では状態監視が必要不可欠
- 状態監視には、膨大な情報の集計が必要
- そこであらゆる情報がインターネット上に集まる”IoT”に多くの企業が着目
- 集計データの蓄積・分析(ビッグデータ・機械分析)の判断が必要だが、IoTベンダーには計測方法・診断手法・現場情報のノウハウが無い



### 解決

IMVが、測定方法・診断手法・現場情報の提供



VP-100 プリアンプ内蔵圧縮タイプ  
加速度ピックアップ

高精度・低価格

豊富なバリエーション

省スペース



⇒ IoTベンダーとタイアップし、振動に関するIoT対応製品と測定ノウハウの提供による  
IoTビジネスへの本格参入



## 社会インフラ事業へ本格参入 ⇒ IMVをより身近に感じられる存在へ

- 高性能加速度センサモジュール。地震の揺れ・長周期振動を高感度・低価格で感知するセンサー

### 構造ヘルスマモニタリング



- 充実したモニタリング機能
- コンパクトで設置作業を軽減する機能。無線タイプもリリース予定であり、工事費の大幅な軽減が実現
- 橋梁、ビル、住宅、支柱・塔などの構造状態を低価格で“ヘルスマモニタリング”

橋梁



ビル



住宅



支柱・塔



# ありがとうございました



代表取締役会長

小嶋 成夫

代表取締役社長

小嶋 淳平

経営企画本部長

濱里 一也

## ■ お問い合わせ先

IR窓口：経営企画本部経理部 IR担当 大山 坂本

TEL：06-6478-2565

FAX：06-6478-2567

E-MAIL：imvir@imv.co.jp

<http://www.imv.co.jp>

## ○免責事項

本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。投資に関する決定は、ご自身のご判断において行われるようお願いいたします。

本資料を作成するに当たっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保障するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。

本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となることをご承知おきください。



1. 会社概要

2. 2016年決算サマリー

3. 今後の取り組み

(ご参考資料)

## 貸借対照表の概要(連結)



(単位:百万円)

	16/9期末	15/9期末	増減額		16/9期末	15/9期末	増減額
流動資産	7,324	6,632	+692	流動負債	5,221	4,755	+466
現金預金	1,712	1,623	+88	仕入債務	2,174	2,117	+56
売上債権	3,360	2,786	+573	短期有利子負債	1,902	1,697	+204
棚卸資産	1,881	1,902	△21	その他流動負債	1,145	941	+204
その他流動資産	370	319	+50	固定負債	1,355	1,685	△330
固定資産	4,325	4,348	△23	長期有利子負債	1,038	1,395	△357
有形固定資産	3,981	4,085	△104	その他固定負債	316	289	+27
無形固定資産	73	33	+40	負債合計	6,577	6,441	+136
投資その他資産	270	229	+41	純資産合計	5,072	4,539	+532
資産合計	11,649	10,980	+668	負債・純資産合計	11,649	10,980	+668

資産の部 : 売上債権が465百万円増加いたしました。

負債の部 : 短期有利子負債は204百万円増加いたしました。

長期有利子負債は357百万円減少いたしました。

純資産の部 : 純資産は532百万円増加いたしました。



# キャッシュフロー計算書の概要(連結)



(単位:百万円)

		16/9期	15/9期	増減額
①	営業活動によるキャッシュ・フロー	784	1,142	△358
②	投資活動によるキャッシュ・フロー	△126	△1,477	+1,350
①+②	フリーキャッシュフロー	657	△334	+992
③	財務活動によるキャッシュ・フロー	△566	242	△809
④	現金及び現金等価物に係る換算差額	△46	3	△50
⑤	現金及び現金同等物の増減額	45	△87	+132
⑥	現金及び現金同等物期首残高	1,399	1,487	△87
⑦	現金及び現金同等物期末残高	1,444	1,399	+45

営業CF : 税金等調整前四半期純利益950百万円及び減価償却費337百万円等の増加要因が、売上債権の増加等の減少要因を上回ったことにより、784百万円の増加となりました。

投資CF : 東京テストラボ上野原サイトの設備投資等の有形固定資産の取得による支出571百万円等の減少要因が、セールアンドリースバックによる有形固定資産の売却による収入429百万円等の増加要因を上回ったことにより、126百万円の減少となりました。

フリーキャッシュフロー: 有形固定資産取得による支出の減少によりフリーキャッシュフローは657百万円となり、前年同期比992百万円増加いたしました。

財務CF : 長期借入金の返済による支出412百万円及び配当金の支払いによる支出106百万円等により、566百万円の減少となりました。

# 沿革



- 1957 株式会社国際機械振動研究所(旧社名)を設立
- 1988 東京テストラボ開設
- 2005 ジャスダック証券取引所に上場
- 2011 10月、英国に IMV CORPORATION EUROPEAN TECHNICAL CENTRE を開設  
(現 IMV EUROPE LIMITED)
- 2012 1月、タイに IMV (THAILAND) CO., LTD. (子会社)を設立  
11月、ドイツに IMV CORPORATION German Sales Office を開設  
(現 IMV EUROPE LIMITED German Sales Office)



IMV EUROPE LIMITED



IMV (THAILAND) CO., LTD.



IMV EUROPE LIMITED German Sales Office



IMV株式会社 上海代表所



IMV EUROPE LIMITED European Manufacturing Centre

- 2013 5月、IMV株式会社 上海代表所を設立

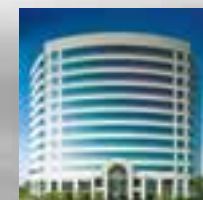
- 2015 1月、英国にIMV EUROPE LIMITED European Manufacturing Centreを開設

- 11月、東京テストラボ 上野原サイト 高度試験センターを開設

- 2016 4月、米国にIMV America, Inc.(子会社)を開設



東京テストラボ 上野原サイト 高度試験センター



IMV America, Inc.



[SECURE THE FUTURE]



## IMVが見守る未来

IMVは1957年の設立以来、振動問題のソリューションパートナーとしてさまざまな分野と携わってきました。これからも、製品→パートナー→社会に対して、信頼を形にする企業であり続けます。

### Future

安全を見つめて未来の社会に貢献します。

IMV work with our customers and investors to secure their future, developing the products, skills and resources that will bring success. IMV appreciate this and work fast to meet our Partners' future needs.

### Integrity

誠実で開かれたパートナーシップを大切にします。

IMV treat our customers, suppliers and investors with the highest of integrity, dealing with all our partners in an open and honest manner. IMV work hard to earn and keep your trust.

### Reliability

製品とサービス、すべてに信頼を作り込みます。

Our customers use IMV's products to ensure reliability and performance. We build this reliability into all our products and services. IMV will be there when you need us.

### Strength

振動技術の世界リーダーとして経営基盤を強化します。

IMV's financial strength means we will be a long-term partner for our customers and able to invest in the research for new products. IMV have the strength in finances, products and people to serve our customers on a global basis. We have the strength to be the World's Number 1 Vibration Test and Measurement Company.

### Technology

顧客ニーズに俊敏に応える技術を開発します。

IMV invest substantially in research to understand our Customers' needs and the products to meet those needs. IMV have been the first to market with many new products and technologies and we will continue to lead the market through technology and innovation for the benefit of our customers and investors.